



Open Seminar

Hosted by Keio University Baby Lab and Hiyoshi Psychology Lab

公開セミナー

「発達性読字障害における大脳皮質の律動変化と神経構造」

Cortical oscillations and neuroanatomy in developmental dyslexia

Prof. Franck Ramus

フランス国立科学研究センター 上級研究員

CNRS senior research scientist
Laboratoire de Sciences Cognitives et Psycholinguistique,
École Normale Supérieure, CNRS, EHESS, France

(参加自由)

日時： 2014年7月14日（月） PM 12:30-13:40 Mon. 14th July, 2014

場所： 慶應義塾大学 三田キャンパス 東館 6階 G-SEC Lab
G-SEC Lab, East Research Building 6F, Mita Campus, Keio Univ.
(http://www1.gsec.keio.ac.jp/text/about_access.php)

フランク・ラミュール先生はフランス高等師範学校 認知科学・心理言語学研究所にて
“認知機能の発達と病理”のチームリーダーとして言語や社会的認知機能の発達とその障害について研究をされています。
特に発達性 Dyslexia(読字障害)、Specific Language Impairment(特異的言語障害)、自閉症を対象として、
数々の認知神経科学及び遺伝学的研究を発表されてきました。
本講演では発達性読字障害におけるEEG-fMRI計測の研究や脳構造解析研究について最新の知見をご発表いただきます。

司会 皆川泰代（慶應義塾大学文学部心理学専攻 准教授）

*英語(通訳なし) Language used: English 参加費無料 Fee: Free 事前登録不要 No advance registration required

主催: 慶應義塾大学 赤ちゃんラボ, 日吉心理学教室
共催: 慶應義塾大学 論理と感性のグローバル研究センター
お問い合わせ先: 慶應義塾大学 論理と感性のグローバル研究センター
特任助教 矢田部 yatabe@z7.keio.jp

